

1 研究主題

中学校教職員の協働性の高まり～「よさ」を見つめ、共有することを通して～

丸亀市立南中学校 教諭 亀井 明子

2 研究の具体と今後の課題

生徒の「よい姿」の共有は、教職員のポジティブなコミュニケーションを多方向に広げ、教職員の協働性の高まりにつながるよい循環を生み出すと考え、本研究に取り組んだ。試行錯誤した結果、「よい姿」を共有する手段の一つとして、校務支援ソフト Te-comp@ss の機能「えびメモ」を活用することが、中学校では負担が軽く、高い効果が期待できることが分かり、それを活用した。

実践の結果、「よい姿」を見取って登録した「エピソード」が、教職員のコミュニケーションのきっかけになり、生徒理解の促進や指導方法の省察につながった。また、生徒指導上で困難な時でも、生徒への期待感を持ち続けることができ、よりよい教育実践を続けていこうとする気持ちにつながった。さらに、「よい姿」の共有をきっかけに教職員が語り合うことが、教職員一人一人のパフォーマンスの向上だけでなく、組織全体の協働性の高まりにつながり、個ではなく「チーム」で教育実践する実感にもつながった。1年間を通して蓄積したデータは、通知表の所見に活用し、年度を越えての情報の共有と生徒理解に活用できる。

今後は、全教職員による「よい姿」の共有を肯定的に受け止める雰囲気の中、「えびメモ」の活用を広げ、さらなる教職員の協働性の高まりにつなげていきたい。

1 研究主題中学校における学年主任の組織行動の探究
ーメンバーから見た主任の組織行動の分析ー

宇多津町立宇多津中学校 教諭 北 玲子

2 研究の具体と今後の課題

中学校では学年主任を中心とした組織的な学年団経営が行われており、昨年度の実践研究では、主任の主な組織行動として8つの構成概念（目標共有、情報共有、関係性の醸成、共通実践の推進、省察と改善の促進、率先行動、複数解決策の練り上げ、ヒントの提供）を見出した。今年度は具体的な活動における主任の組織行動の在り方を探究するため、主任として構成概念を意識した組織運営を行い、重点的に取り組んだ学年団会の運営、学年集会の運営、学年団週報の発行、学年団連絡ボードの活用、学年団内の日常会話の5つの活動を対象として、主任の意図とメンバーが感じ取った重要度との関係性の分析と考察を行った。

主任とメンバーが共通に重視した構成概念としては、5活動のうち4活動に【目標共有】【情報共有】、2活動に【共通実践の推進】、1活動に【関係性の醸成】が見出され、目標と情報の共有に関しては、主任とメンバーの重要意識が高いことが明らかになった。また、活動別に重視している度合いを分析すると、主任とメンバーで共有されている構成概念がある一方で、乖離が見られた構成概念を見出すことができ、各活動の改善点が明確になった。

今後は、学年主任の組織行動が学年団組織の取組として効果を上げるために必要となる主任とメンバー間で重視する組織行動の構成概念を共有する方策を検討していきたい。